

食品学科 シラバス目次

1年前期

配当年次	ページ数	科目名	ナンバリング
1年前期	4	食生活論	CK101
1年前期	6	食と環境	CK102
1年前期	10	食と健康	CK103
1年前期	14	化学入門	CF101
1年前期	18	リテラシー(演習を含む)	CF102
1年前期	26	自己表現法	CC101
1年前期	28	日本国憲法	CS101
1年前期	32	社会学	CS102
1年前期	36	化学	CN101
1年前期	46	生物学	CN102
1年通年	52	情報処理演習 I	CI101
1年前期	64	体育実技	CH102
1年～4年	66	スポーツ・リクリエーション	CH103
1年前期	68	英語 I	CL101
1年前期	80	フランス語 I	CL102
1年前期	88	中国語 I	CL103
1年前期	360	基礎調理実習 I	FC111

食生活論

(2単位) (食品学科)

開講時期 1年・前期
担当者氏名 福留 奈美

◆授業概要

自分や家族の食生活の課題を見つけるとともに、日本や地球全体の食料生産および消費活動の課題にも関心を持ち、解決策を考える力をつけることを目的とする。そのために、まず、健康的な食生活のあり方を考え、自らの食生活と照らし合わせて改善すべき点を探る。また、日本および世界の食文化に目を向け、食の多様性、食行動の特徴、生活文化との関わり等をとらえていく。食生活にみる地域の特徴については、日本の郷土料理、葛飾の特徴的な食、世界の食事様式等を題材にする。

◆到達目標

1. 健康的な食生活の要件を理解する。
2. 自分の食生活を見直し、より健康な食生活を営む力を身につける。
3. 食生活の歴史を踏まえ、食生活にみる地域の特徴や日本の食事様式についての正しい認識を持つ。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	食生活と健康(1)	ガイダンス、自分の食生活の振り返り 食生活の課題 日本人の食事摂取基準とは	毎日、どのような食事をとっているのか、朝昼夕食の典型的なパターンを書きだしてくる (30分)
			復習 授業内容をふまえ要点をまとめる (150分)
2	食生活と健康(2)	フレイル、サルコペニア対策 やせ願望に潜む新型栄養失調の危険性 栄養価計算の基本(1)	予習 配布資料を読み、次週までの課題について調べ、考えてくる。(60分)
			復習 授業内容をふまえ要点をまとめる (120分)
3	食生活と健康(3)	食生活の実態をとらえる 栄養価計算の基本(2) 足りない栄養素と摂取方法を考える	予習 配布資料を読み、次週までの課題について調べ、考えてくる。(60分)
			復習 授業内容をふまえ要点をまとめる (120分)
4	和食文化の特徴	和食文化の4つの特徴 ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」 日本型食生活の利点	予習 配布資料を読み、次週までの課題について調べ、考えてくる。(60分)
			復習 授業内容をふまえ要点をまとめる (120分)
5	地域の食文化	『伝え継ぐ 日本の家庭料理』を題材に、地域の味、家庭の味について考える	予習 配布資料を読み、次週までの課題について調べ、考えてくる。(60分)
			復習 授業内容をふまえ要点をまとめる (120分)
6	日本と世界の食生活	世界の食文化をとらえる視点 食事作法 (マナー) と禁忌 (タブー) グループワーク: 「世界の食事」説明	予習 配布資料を読み、次週までの課題について調べ、考えてくる。(60分)
			復習 授業内容をふまえ要点をまとめる (120分)
7	日本と世界の食事 (1)	グループワーク: 世界の食事についての調査 個人ワーク: 日本の郷土料理調べ	予習 グループごとに興味のある国の食事について書籍やネットを使い調べる。(120分)
			復習 グループごとに特定の国の食事についてまとめる。(120分)
8	日本と世界の食事 (2)	グループワーク: 発表準備、リハーサル 個人ワーク: 日本の郷土料理まとめ	予習 特定の国の食事について、調査内容をまとめる。(120分)
			復習 特定の国の食事についてパワーポイントにまとめる。(120分)
9	日本と世界の食事 (3)	グループ発表と評価(1)	予習 特定の国の食事について、調査内容をまとめる。(120分)
			復習 発表を振り返り、興味のある国の食事について追加調査しまとめる。(120分)
10	日本と世界の食事 (4)	グループ発表と評価(2)、まとめ	予習 パワーポイントで発表できるように準備する。(120分)
			復習 発表を振り返り、興味のある国の食事について追加調査しまとめる。(120分)
11	食環境と食生活の変化 (1)	食のトレンドウォッチ 平成30年の食卓の変化 現代食生活のキーワード少	予習 配布資料を読み、次週までの課題について調べ、考えてくる。(60分)
			復習 授業内容をふまえ要点をまとめる (120分)
12	食環境と食生活の変化 (2)	インターネット社会と食情報 中食の発達と家庭内食の返照 高度経済成長期の食卓の変化	予習 配布資料を読み、次週までの課題について調べ、考えてくる。(60分)
			復習 授業内容をふまえ要点をまとめる (120分)
13	食環境と食生活の変化 (3)	米食・魚食から肉食嗜好へ 食料自給率・食料生産力低下 環境負荷を軽減するレスミート食の可能性	予習 配布資料を読み、次週までの課題について調べ、考えてくる。(60分)
			復習 授業内容をふまえ要点をまとめる (120分)

14	地域の食文化	東京下町の食文化 ー地域の風土や歴史と食の関わりー	予習 東京下町の食やソウルフードについて調べる。 (90分)
			復習 授業の内容をまとめる。(120分)
15	食生活を取り巻く課題、まとめ	世界の食糧問題とSDGs 振り返り、まとめ	予習 配布資料を読み、次週までの課題について調べ、考えてくる。(60分)
			復習 授業内容をふまえ要点をまとめる(120分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
八訂 日本食品成分表 2024	香川明夫監修	女子栄養大学出版部

◆参考書

書名	著者	発行所
白熱教室 食生活を考える	金子佳代子・松島悦子 編著	アイ・ケイコーポレーション
世界の食事	銀城康子企画・文	農山漁村文化協会
世界の食事文化	石毛直道	ドメス出版
近現代の食文化	石川寛子・江原絢子	弘学出版
日本食の文化	江原絢子編	アイ・ケイコーポレーション

◆関連科目

食と環境、調理学Ⅰ・Ⅱ、食品学各論、栄養学Ⅰ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	
レポート	30	実技(発表・コミュニケーション)	20
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)「学習に取り組む姿勢・意欲」は、授業内での発言・参加状況などを総合して評価する。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

学習の振り返りのためのプリントを配布して要点の復習を行うとともに、Moodle を用いて授業の理解度を確認する。

◆受講上の注意事項及び助言

大学で食品に関わる領域を学ぶ上で必要となる基礎的な知識を身につけます。

自分の食生活や食習慣に目を向けるとともに、日々、社会で起こっている事象にも関心を持って、実生活と授業を結びつけて考えるようにしてください。

◆オフィスアワー

受付時間および場所：新学期開始時に学務課からの掲示を確認すること

上記で対応できない場合：研究室入り口のBOXに用件と連絡先を入れること。折り返し連絡する。

食と環境

(2単位) (食品学科・管理栄養学科)

開講時期 1年・前期

担当者氏名 篠原 優子、折口いづみ

◆授業概要

健康であるためには、豊かな食生活とそれを可能とする環境が必要である。現在の食環境を考える場合、自然環境問題や地球環境問題それに人口問題も考慮する必要がある。環境汚染物質が生態系に影響を与え、健康被害を引き起こす現状を解説し、食の安全へと導く。また、過去に起きた食に関する安全性の問題や食品事故や偽装といった問題を取り上げ、食に関する課題を考える。専門科目を学ぶうえで、本講義が学習の意欲向上と参考の一助となることを切望する。

◆到達目標

1. 食料生産の現状と自然破壊の現状およびその原因を理解することができる。
2. 環境が汚染される原因を知り、その対策を考えることができる。
3. 遺伝子組み換えの原理を理解し、その安全性について考える。組み換え技術、組み換え農産物の種類と生産量の現状を学ぶことができる。
4. 社会的影響の大きかった食品に関する事故の原因や背景などを理解することができる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	様々な環境問題	大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、森林破壊などの地域および地球規模での環境問題を解説する。(篠原)	予習 過去の環境問題を調べる。(60分)
			復習 汚染物質の環境循環と汚染のメカニズムを理解する。(60分)
2	食と環境の関連性	良好な環境下では、良質な食料の生産と健全な生態系の営みが行われている。食と環境の関連性の基礎を学ぶ。(篠原)	予習 食と環境の関連性、主に食物連鎖について調べる。(60分)
			復習 食と環境の基本的な用語、食物連鎖などを復習し、まとめる。(90分)
3	水俣病と環境汚染物質	有害化学物質に汚染された食品の摂取によりもたらされた水俣病について解説する。(篠原)	予習 水俣病について調べる。(60分)
			復習 身近な化学物質の発生源から生物濃縮までをまとめる。(90分)
4	有害化学物質による海洋汚染	有害化学物質による地球規模での海洋汚染と生態系への影響を解説する。(篠原)	予習 海洋生物の異変を調べる。(60分)
			復習 有害化学物質の海洋汚染を通して、海産物への影響を考える。(60分)
5	食料の生産と環境	人間活動により破壊される食料生産地の現状とその回復策について考える。(篠原)	予習 世界的な食料需給と供給のバランス、食料自給率について調べる。(60分)。
			復習 世界の様々な自然環境と食料生産との関わりを復習し、それらの破壊要因および回復策について考えまとめる。(60分)。
6	食のリサイクル	日本の食料生産環境や食品廃棄物の現状を理解し、その問題について考える。(篠原)	予習 食品廃棄、賞味期限と消費期限について調べる。(60分)
			復習 食品製造や廃棄物問題を復習し、家庭内食品廃棄について調べる。(120分)
7	食と病原性生物	食中毒菌、ブタやトリ由来の毒性を持つウイルスおよびBSEについて解説する。(篠原)	予習 食の安全性、病原性のある生物について調べる。(60分)
			復習 食の安全性について復習し、食材の扱い方を確認する。(90分)
8	食の供給システム①	食品の生産、加工、流通および販売に至る過程を解説し、その間の食の安全管理にもふれる。(篠原)	予習 食品製造の安全管理について調べる。(60分)
			復習 生産から販売までの過程、安全管理について復習し、まとめる。(90分)
9	食の供給システム②	加工食品の製造における HACCP システムを用いた安全管理について解説する。(篠原)	予習 食品製造における HACCP システムについて調べる。(60分)
			復習 一般衛生管理と HACCP について復習し、まとめる。(120分)
10	食のライフスタイル①	バランスのとれた食の大切さについて、近年の研究結果に基づいて解説する。(折口)	予習 バランスの取れた食事とは何か調べる。(60分)
			復習 バランスの取れた食事を確認し、自分に合った食事形体を考える。(60分)
11	食のライフスタイル②	健康食品、遺伝子組換え食品について解説する。(折口)	予習 健康食品、遺伝子組換え食品について調べる。(90分)
			復習 健康食品、遺伝子組換え食品のメリット・デメリットを再確認する。(60分)

12	食品由来の化学物質の安全性	食品に含まれている化学物質の中には、発がん性などが疑われているものが存在する。これらの毒性に関する知識を整理し、解説する。(折口)	予習 身近な病気である「癌」について調べる。(90分)
			復習 食品成分の安全性に関して復習し、まとめる。(60分)
13	食の行政	食品の品質保証に必要となるリスク管理や情報公開などを解説する。(折口)	予習 食品表示に関して調べる。(60分)
			復習 食品表示に関して復習し、まとめる。(60分)
14	食の倫理	食中毒の人為的原因や食品偽装事件を題材として食品従事者のあるべき姿を考える。(折口)	予習 最近の食品偽装事件について調べる。(60分)
			復習 食品偽装事件に関することをまとめ、問題点を再確認する。(60分)
15	食環境における今後の展望	食中毒の発生状況を分析するとともに最近の食の偽装問題についても言及する。(折口)	予習 最近、ニュースとなった食品問題は何か調べる。(60分)
			復習 食の安心・安全に関することを復習し、まとめる。(90分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
講義の都度資料を配布する。		

◆参考書

書名	著者	発行所
必要な場合は、講義の中で紹介する。		

◆関連科目

食生活論、微生物学、化学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート	50	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲			

(補足)

複数回、レポートを課し、その記述内容から論理性、正確性などを考慮し、段階的に評価する。レポート未提出者は再履修となるので必ず期限内に提出すること。

課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポート等は、翌週以降に返却し解説する。

◆受講上の注意事項及び助言

基礎事項および専門用語を理解し、覚えること。
食と環境関連のニュースに注目すること。

◆オフィスアワー

篠原 時間・場所：授業日の 16:20～17:00。食品学第2研究室(6号館3階)。1～9回担当

上記で対応できない場合：電子メール(shinohara-y@tsc-05.ac.jp)で質問を受け付けます。

折口 時間・場所：授業時間外の 9:00～17:00・食品学第1研究室(1号館2階)。10～15回担当

上記で対応できない場合：電子メール(origuchi-i@tsc-05.ac.jp)で質問を受け付けます。

食と健康 (2単位) (食品学科)

開講時期 1年・前期
 担当者氏名 柴田 隆一

◆授業概要

食と健康に関わる「正しい食と健康の情報や知識」を身につけられるように、「食事管理」、「人の行動」、「ライフステージ」、「疾病予防」、「社会と環境」それぞれ科学的な視点から学んでいく。
 マスメディアやSNS等の情報に戸惑うことなく、自身の健康に必要な食生活の基本を身につける。

◆到達目標

1. 食がどのように健康に影響するかを知る。
2. ライフステージ・疾病・食をめぐる社会環境についての正しい知識を身につける。
3. 自身の食と健康に対する態度や行動を改善できるようになる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	ガイダンス 食事管理と健康①	オリエンテーション 食べることの意義(食べることの意義、食事の基本、生体リズムと食事)	予習 食べること・食事の基本について考える(60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する(60分)
2	食事管理と健康②	バランスのよい食事(主食、主菜、副菜、牛乳・乳製品と果物、1日を通してのバランス)	予習 バランスのよい食事について考える(60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する(60分)
3	食事管理と健康③	エネルギーのバランス(エネルギーとは、エネルギー摂取とエネルギー消費、エネルギーバランスのアセスメント)	予習 エネルギーのバランスについて考える(60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する(60分)
4	人の行動と健康①	おいしさ(おいしさとは、おいしさを感じる仕組み、おいしさに影響をもたらす要因)	予習 おいしさについて考える(60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する(60分)
5	人の行動と健康②	食行動(食べること、行動科学に基づく考え方、食行動の変容を促す技法)	予習 食行動について考える(60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する(60分)
6	人の行動と健康③	情報(食の安全、食品の表示、健康と情報)	予習 食に関する情報について考える(60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する(60分)
7	ライフステージと健康①	母と子の健康と栄養(人のライフコース、母親の健康・栄養、母と健康の健康と社会)	予習 母と子の健康と栄養について考える(60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する(60分)
8	ライフステージと健康②	若者世代の健康と栄養(若者世代の健康・栄養、若者世代の健康と社会、スポーツと栄養・食事)	予習 若者世代の健康と栄養について考える(60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する(60分)
9	ライフステージと健康③	シニア世代の健康と栄養(シニア世代の身体的変化と健康課題、シニア世代の健康づくり)	予習 シニア世代の健康と栄養について考える(60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する(60分)
10	疾病予防と健康①	生活習慣と栄養(生活習慣病とその要因、メタボリックシンドロームと内臓脂肪、生活習慣病予防の考え方)	予習 生活習慣と栄養について考える(60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する(60分)
11	疾病予防と健康②	生活習慣病予防と健康・栄養管理(肥満予防、糖尿病予防、高血圧予防、脂質異常症予防、骨の健康)	予習 生活習慣病の予防について考える(60分)
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する(60分)

12	疾病予防と健康③	気をつけたい健康課題（やせ、貧血、食物アレルギー）	予習 健康課題（痩せ、貧血、食物アレルギー）について考える（60分）
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する（60分）
13	社会環境と健康①	生活と環境（栄養・食生活と疾病構造の変化、少子高齢化における豊かさと健康、持続可能な社会）	予習 SDGsについて考える（60分）
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する（60分）
14	社会環境と健康②	文化と健康（日本の食文化、食文化と健康、食文化と地域社会）	予習 日本の食文化について考える（60分）
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する（60分）
15	社会環境と健康③ まとめ	環境と健康（健康を決める要因、健康と生態学モデル、食環境と健康） まとめ	予習 健康の社会的決定要因、健康の生態学モデルについて考える（60分）
			復習 配布資料をよく読み、講義内容を整理し、理解する（60分）

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
講義の都度資料を配布する		

◆参考書

書名	著者	発行所
食と健康の科学 [第3版]	稲山貴代、大森玲子 他	建帛社

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	35
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	15		

（補足）2 回目以降の授業開始時に毎回小テストを実施する。各回の合計点を換算し評価する。なお、小テストの追再テストは実施しない。学習に取り組む姿勢・意欲は、「積極的に意見を述べる」「課題に積極的に取り組んでいる」の項目で評価する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

小テストはその時間内に解答・解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

配布資料を活用し、復習を充分に行うこと。

不明な点は、質問すること。

投影しているパワーポイントをスマートフォン等で撮影することは原則禁止とする。

◆オフィスアワー

受付時間：授業当日、授業終了後～18時

受付場所：教室または研究室

上記で対応できない場合：研究室前のメッセージボードを活用する。

化学入門 (2単位) (食品学科)

開講時期 1年・前期
 担当者氏名 鈴木 等 篠原 優子 松原 準之祐

◆授業概要

本学では、食品学科の学生にふさわしい資質を養う目的で、各学年に授業と実験実習科目が開講されている。「化学」はそれら科目を受講・理解するためにはなくてはならない基礎科目である。化学入門は、このような位置づけにある化学のうち基礎的な分野についての理解を深めることを目的として開講されている。基本的に講義は、教科書と授業プリントを用いた形式をとる。各授業項目の内容を解説し、問題演習等を通して内容の定着を図る。適宜、レポート課題または小テストを行う。

◆到達目標

1. 物質が元素からできていること、その性質は原子の構造に関係することを理解し科学的な考察力を身に付けることができる。
2. 物質がイオンや分子から成り立ち、化学式で表示されることを理解し科学的な考察力を身に付けることができる。
3. 物質質量、水溶液の濃度計算、酸と塩基、それと化学反応式の量的関係（化学量論）を理解し科学的な考察力を身に付けることができる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	元素と物質	出欠、名簿（人数）確認、授業方針の説明、化学の学び方、化学に必要な計算、元素名と元素記号、単体と化合物、物質の三態、同素体、純物質と混合物、混合物の分離	予習 教科書 p4~p11 を読み、化学計算の基本的な方法を調べておく（90分） 復習 代表的な元素名と元素記号を覚え、物質の成り立ちを考える（90分）
2	原子の構造 電子配置と電子殻	原子の構造（陽子、中性子、電子）と表記法、ボーアモデル、同位体、電子配置、電子殻、価電子	予習 教科書 p12~p17 を読み、原子の基本構造と原子モデルの表し方を調べておく（90分） 復習 原子がどのように構成され、その性質とどのような関係にあるかを理解する（90分）
3	周期表	周期表の構成、元素の配置、典型元素と遷移元素、金属元素と非金属元素、同族元素	予習 教科書 p18、p19 を読み、身近な元素が周期表のどの位置にあるかを調べる（90分） 復習 1~3 周期の元素と周期表の元素の配置を覚え、原子の性質との関係をとらえる（90分）
4	イオン、イオン結合	イオンの名称、イオンの価数、イオン式、イオンでできた物質の名称、組成式、電解質・非電解質	予習 教科書 p20、p21 を読み、イオンの生成と結合を予習する（90分） 復習 イオンの名称、イオンの価数を覚え、イオン結晶の組成式が書けるようにする（90分）
5	分子と共有結合	化学式（分子式、電子式、構造式、示性式） 原子価、価標、共有電子対、非共有電子対	予習 教科書 p22、p23 を読み、分子の表記法を調べる（90分） 復習 元素記号を使って物質を表す化学式とその書き方・読み方を覚える（90分）
6	化学結合の種類と特徴	イオン結合、共有結合、水素結合、金属結合、配位結合、分子の極性、電気陰性度	予習 教科書 p34、p35 を読み、化学結合のちがいを整理する（90分） 復習 物質を構成する化学結合の種類ならびにこれに伴う物質の性質を整理する（90分）
7	原子量と分子量	原子量、分子量、式量	予習 教科書 p36 を読み、相対質量をとらえる（90分） 復習 原子量の考え方を理解し、化学における量の扱い方を習得する（90分）
8	物質質量	モルと質量とアボガドロ定数、モル質量、気体の体積	予習 教科書 p40 を読み、モルと質量の関係をとらえる（90分） 復習 物質の質量・体積と物質質量（mol）の関係を理解し、求め方を習得する（90分）
9	水溶液の濃度計算	質量パーセント濃度、モル濃度	予習 教科書 p46 を読み、溶液の濃度の関係を確認する（90分） 復習 モル濃度の計算問題を解く（90分）
10	化学反応と反応式	化学変化と物理変化、化学反応式、イオン反応式	予習 教科書 p48 を読み化学反応式の係数について調べる（90分） 復習 化学反応式とその表示法を理解する（90分）
11	化学反応式の量的関係	反応式と物質質量、質量、体積の関係	予習 教科書 p52 を読み、反応式の量的関係について調べる（90分） 復習 化学反応式の量的関係の問題を解く（90分）

12	酸と塩基Ⅰ	酸・塩基の定義、酸・塩基の強さ、電離度、	予習 教科書 p58、p60 を読み、酸および塩基の共通の性質を調べておく (90分) 復習 酸・塩基とは何か知り、酸・塩基の強さおよび酸性溶液・塩基性溶液の強さの表し方をとらえる (90分)
13	酸と塩基Ⅱ	水素イオン濃度、pH	予習 教科書 p62、p63 を読み、 H^+ と OH^- の関係を調べる (90分) 復習 pHの計算問題を解く (90分)
14	酸と塩基Ⅲ	中和反応と滴定、中和の量的関係 塩の性質、塩の化学式	予習 教科書 p66、p68~p70 を読み、中和反応の本質的变化を調べておく (90分) 復習 中和反応と物質量の関係を理解し、塩の性質を整理する (90分)
15	酸化還元	酸化・還元の定義、酸化数	予習 教科書 p76、p78、p79 を読み、酸化還元反応の前後の物質の質的变化を調べておく (90分) 復習 酸化・還元を正確に覚え、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。(90分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
高校化学基礎カラーノート 新課程	実教出版編修部 編	実教出版

◆参考書

書名	著者	発行所
高等学校理科用 高校化学基礎	妻木貴雄、加藤優太、遠藤拓也	実教出版
サイエンスビュー 化学総合資料	実教出版編修部 編	実教出版

◆関連科目

化学 有機化学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	60	小テスト	20
レポート	10	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) 定期試験、小テスト、レポートまたはノート提出および授業内に配布する演習プリントなどの提出物の内容に基づき評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

小テストは採点后、返却し、授業で解答を示し解説をする。

◆受講上の注意事項及び助言

高校での履修した理数科目や習熟度を考慮しグループ分けをして、それぞれに合った授業を行い化学の基本を身に付けます。

予習、特に復習に重点をおいて学習し、元素記号および化学式は、読み・書きを繰り返し覚えましょう。

化学用語は、用語の意味をしっかりとまとめて理解しましょう。

疑問に思った事項や分からなかった問題は、放置せずに必ず質問して解決するようにしましょう。

◆オフィスアワー

松原 受付時間： 出講日に受け付ける (出講日、時間は学務課に確認を取ること)
受付場所： 学務課内 講師控室

篠原 受付時間： 授業日の 16:20~17:00
受付場所： 教室または 6 号館 3 階 食品学第 2 研究室

鈴木 受付時間： 新学期開始時に学務課からの提示を確認すること
受付場所： 教室または 1 号館 3 階 理化学研究室

上記で対応できない場合： 電子メールで質問を受け付けます。

リテラシー (1単位) (食品学科)

開講時期 1年・前期
 担当者氏名 田所忠弘・有村久春・北村義明・山本直子

◆授業概要

リテラシーとは、「読み書き」や「情報活用」の能力を意味する。この授業では、「大学での学び方」と「大学生活の仕方」を理解することを基本とし、大学における学修の意義を確認する。

その上で、「情報の探し方(検索と収集)」や「文献の読み方」をはじめとする「勉強の仕方」等を学び合い、実際的な定着を目指して指導する。本学の専門科目は、「実験」や「実習」の授業が多く、体験と経験を通して知識を蓄積してゆくことを重視している。それゆえ、学生個々が学びの事実をレポートの作成をしたりプレゼンテーションしたりする実践的な力量を身に付けることを目標とする。

授業の進め方は、資料を配布し、全体の流れを講義形式で進めた後に、グループディスカッション、グループワークを行い、発表又はレポート作成等を行う。

◆到達目標

1. 自分にとっての大学で学ぶ意味を確認して、「大学で学ぶ姿勢」を理解し、身に付ける。
2. 授業(予習・授業参加・復習)において、必要な情報を探し(検索)→手元において(収集)→読み(情報の入力)→記録して(記録・記述)→理解する(知識の習得・保存)→理解したことを表現する(表現・レポート)という「大学での学びのサイクル」を理解し、身に付ける。
3. 大学生は、「学んだことを確認して表現する」ための「レポート」を書く機会が多い。それゆえ、「レポートが書ける」力量を身に付ける。
4. 確認テストなどにより、自らの得意分野や不得意分野に気づき、弱点の補強をすることができる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	ガイダンス	大学・学科のポリシー・授業方針・意義ならびに評価について(田所)	予習 学生便覧を読んでもくる(90分) 復習 再び、学生便覧を読み返し、ノートにまとめる(60分)
2	大学で学ぶ意味(1)	大学で学ぶ意味を再確認(有村)	予習 自分なりに大学で学ぶ意味を考え、ノートにまとめる(90分) 復習 授業後、大学で学ぶ意味を再構築してノートにまとめる(60分)
3	大学で学ぶ意味(2)	大学生は、不可能を可能にする考える力をもつ(有村)	予習 大学生の考え方って何か自分なり考え、ノートにまとめる(90分) 復習 授業後、大学生の考え方をノートに加筆・修正する(60分)
4	大学で学ぶ意味(3)	大学生は、難関を突破するための記憶力が必要である(有村)	予習 大学生の記憶術って何か自分なり考え、ノートにまとめる(60分) 復習 授業後、大学生の記憶術をノートに加筆・修正する(60分)
5	大学で学ぶ意味(4)	大学生は何を読むか。大学図書館に学ぶ(有村)	予習 大学生の読書術って何か自分なり考え、ノートにまとめる(90分) 復習 授業後、大学生の読書術をノートに加筆・修正する(60分)
6	大学で勉強する方法(1)	効果的な勉強方法を学ぶ。集中力と時間の自己管理を身に付ける(有村)	予習 テキスト22~35を読み、自分なり考えをノートにまとめる(60分) 復習 効果的な勉強方法について、集中力と時間の自己管理の在り方をまとめる(90分)
7	大学で勉強する方法(2)	文章の効率的な読み方、ノートの取り方を学ぶ。その在り方の議論(有村)	予習 テキスト42~66を読み、自分なり考えをノートにまとめる(90分) 復習 文章の効率的な読み方、ノートの取り方について、レポートにまとめる(60分)
8	大学で勉強する方法(3)	学んだことを記憶にどうとどめるか、具体策をグループで話し合う(有村)	予習 テキスト67~71を読み、自分なりの記憶力の方法をノートにまとめる(60分) 復習 記憶力について、グループで話し合い、自分で考えたことをまとめる(90分)
9	大学で勉強する方法(4)	大学生として、定期試験・模擬試験などどのように向き合うのか、議論する(有村)	予習 テキスト72~76を読み、自分なりの試験対策の方法をノートにまとめる(60分) 復習 大学生としての試験への取り組み方をレポートにまとめる(60分)
10	大学で勉強する方法(5)	使える知識の蓄積、効果的な勉強のルールを自ら獲得する。その理解の議論(有村)	予習 大学生の読書術って何か自分なり考え、ノートにまとめる(90分) 復習 大学での勉強法について5回分のまとめをする。テキストの読み返しなど(60分)

11	レポートの書き方 (1)	実験授業の受け方、ノートを取り方、レポートの書き方、提出方法を学ぶ。(山本)	予習 大学生のレポートとはどのようなものか、各自で調べノートにまとめておく (60分)。 復習 授業後、レポート作成の要点をまとめる。(60分)。
12	レポートの書き方 (2)	レポート作成に必要な計算法や表・グラフの作成方法を学ぶ。(山本)	予習 実験ノート、レポートの書き方をまとめておく (60分)。 復習 表・グラフの作成の要点をまとめておく (60分)。
13	レポートの作成 (1)	実験を見てレポートを作成し、提出する。実験する目的・原理・方法・結果・考察をまとめる (山本)	予習 実験器具の名前を調べておく (30分)。 復習 レポートが返却されたら訂正・加筆する (90分)。
14	レポートの作成 (2)	参考文献を調べ、実験結果を考察する(山本)	予習 前回の実験に関する文献を調べる (90分)。 復習 授業後考察を充実させる。返却されたレポートを確認する。(60分)。
15	科学論文の読みかた、書き方、調べ方	科学的な事象の捉え方、科学論文の構成、文章の特徴、読み方、を解説するとともに、文献検索の手法を解説する。(北村)	予習 前回配布したプリントを読み、文献検索について知識を得る。(30分) 復習 文献検索を行い、検索結果をレポートとして提出する。(60分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
大学で勉強する方法	A・W・コーンハウザー著	玉川大学出版部

※プリント・ワークシート・資料も適宜配布する。

◆参考書

書名	著者	発行所

◆関連科目

学科の研修オリエンテーションならび実験実習

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	0	小テスト	10
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	50		

(補足) 学習に取り組む姿勢・意欲とは授業に出ることだけではない。授業時間内での課題作成ならびにプレゼン発表のパワーポイント作成、グループディスカッションなどに積極的に参加していることも評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

小テスト、確認テストは当日または翌週に、提出レポートは翌週以降に返却し、解説をする。

◆受講上の注意事項及び助言

【注意事項】 ①授業に積極的に参加すること ②教員の説明を集中して聞くこと ③分からないことがあったらそのままにせず必ず質問すること ④指示されたことは必ず行動すること ⑤提出物の指定があったら必ず期限を守って提出すること ⑥印刷物は自分でファイルして保存しておくこと、など。

【助言内容】 ①大学での学びは、「自主」が基本である。 ②レディネス (準備) のない「自主」はありえない。 ③この授業では、「学ぶ姿勢」と「学び方」を重視する。 ④大学4年間の基礎である「当たり前のことが当たり前」にできる」ことに真剣に取り組む。

◆オフィスアワー

- ・受付時間：放課後 (16:30~17:00) ただし、会議があればその限りではない。
- ・受付場所：田所：新学期開始時に学務課からの掲示を確認すること。
北村：7号館2階 応用微生物学研究室
山本：7号館2階 食品微生物学研究室
有村：4号館4階 教育学第一研究室

* 上記で対応できない場合：授業日の昼休みに研究室に来てください。不在の時はメモを残してください。

自己表現法 (2単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期
 担当者氏名 並木 通男

◆授業概要

本授業では、各自の経験をふりかえる活動をもとに、他者との対話から得られる相互作用を大切にし、思考を整理するためのフレームワークや、思考を可視化（見える化）するツールを活用した対話の促進を目標とする。対話が活性化するためには、「この場では何を言っても受け入れてくれる。人への好奇心や関心が高まる。」という心理的安全性や安心感が得られる、学びの場のデザインが大切である。

各回の授業では、関係性の質や思考の質を高める場づくりの技法を体験する。また、人が本来もっている力を引き出し、相互に掛け合わせることで大きな力に変化するなど、集団の力を最大限に高めていくファシリテーションについても学修する。ファシリテーションは、カウンセリングやコーチングにも活かせるものである。

学生相互が、それぞれの強みを活かしてリーダーシップ（主体性）を発揮し、コミュニケーション（対話や表現）を通して、日常で起きている出来事の原因を深く探究する習慣を身につけることが大切である。

◆到達目標

1. 他者との協働において、場に応じてリーダーシップを発揮することができる。
2. 自己理解を深めることで、他者の多様性を受け止めながら自己主張や適度な自己開示ができる。
3. だれかのために動こうという主体的な行動ができる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ガイダンス	授業の目的と概要・評価について知る お互いを知るコミュニケーションのワーク 主体的・対話的・深い学びの概要を知る	予習 シラバスの確認 (30分)
			復習 授業の振り返りをまとめる (60分)
2	対話のモード	対話のモード（儀礼・討論・対話・生成的対話）の体験を通して自分のメンタルモデル（価値観や偏見）を知る	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 授業の振り返りをまとめる (60分)
3	対話の技法	グループ対話（ワールドカフェ） 少数での対話（ペアインタビュー）の体験	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 授業の振り返りをまとめる (60分)
4	ファシリテート・グラフィックス (FG 技法)	FG 技法の基本、イラストによる対話の視覚化、対話の促進、ファシリテーションを理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 作品課題1、2の作成 (120分)
5	デザインマップ (DM 技法)	DM 技法の基本、発想を広げる、思考を整理する、ノートテイク、コーチングを理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 作品課題3、4の作成 (120分)
6	ESD（持続可能な開発のための教育）	SDGs ゲーム体験と振り返りを通して、栄養学、食品学におけるESDを探求する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 授業の振り返りをまとめる (60分)
7	深い学びの考察（システム思考基礎）	ESDから見える社会の繋がり（システム）と現象を生み出す構造に目を向けるワークを通して深い学びを理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 授業の振り返りをまとめる (60分)
8	関係性のワーク(1)	インナーワーク（集中・気づき・自覚）の体験と対話によるリフレーミングを理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 グループでの自主学習（課題）(90分)
9	関係性のワーク(2)	関係性のレベル（個人の内面のレベル・コミュニケーションのレベル・場のレベル）を体験し、ランクの種類を理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 グループでの自主学習（課題）(90分)
10	関係性のワーク(3)	問いの構造（深い内省・発想の促進・可能性の拡大）を体験し、問いを考える視点を理解する	予習 事前資料の確認 (30分)
			復習 グループでの自主学習（課題）(90分)
11	協働学習(1)	デザイン思考をもとに、テーマに合ったアイデアをグループで企画する	予習 事前配布資料の確認 (30分)
			復習 企画書の整理 (120分)
12	協働学習(2)	ポスターセッションの資料を作成し、発表原稿にまとめる	予習 発表資料の作成 (60分)
			復習 発表原稿をまとめる (120分)

13	協働学習(3)	発表と振り返り(発表者の意図、参加者のフィードバック)	予習 発表のリハーサル(60分)
			復習 発表の振り返り、発表資料の整理(120分)
14	シナリオプランニング	起こり得る未来を思考し、対話を通して主体的、生成的な学びを探究する	予習 前資料の確認(30分)
			復習 グループでの自主学習(課題)(90分)
15	振り返りと生成的な場作り	講座全体を通しての振り返り、未来へ向けての対話を通して、多様な関係性を構築する	予習 振り返り用事前資料の作成(60分)
			復習 課題5の作成(90分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
教科書は特になし 資料は必要に応じて授業で配布する		

◆参考書

書名	著者	発行所
ワークショップ・デザイン	堀 公俊	日本経済新聞出版社
システム思考をはじめよう	ドネラ・H・メドウズ	英治出版
問いのデザイン	安斎裕樹・塩瀬隆之	学芸出版社

◆関連科目

リテラシー、心理学、栄養教育論、臨床栄養カウンセリング、教育方法論

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率(%)	評価項目	評価比率(%)
定期試験	20	小テスト	10
レポート	20	実技(発表・コミュニケーション)	20
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)	20	その他(自己評価と振り返り)	10

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法
授業内で行う。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・毎回の授業の振り返りを重視するので、必ず記入すること。
- ・定期試験及び小テストは、授業の振り返りを基本に論述式の内容を出題する。
- ・作品課題の提出を重視するので、必ず提出すること。
- ・11回~13回は企画から発表まで共通グループでの作業のため、欠席しないように注意すること。
- ・授業で使用する資料、課題の詳細、各回の授業の記録などは共有ドライブで提供する。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業終了後

受付場所： 授業の使用教室また講師控え室

上記で対応できない場合：授業で指示するメールアドレス及び共有ドライブでの質問コーナーで対応する。

日本国憲法 (2単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期
担当者氏名 岡村 みちる

◆授業概要

日本国の理念と基本的人権や自由、統治のための日本国の基本的な機関の構成を定めたのが「日本国憲法」である。この授業では、「日本国憲法」の三大原則、つまり、①日本国憲法が保障する基本的人権について、②平和主義（及び国際協調主義）について、③国民主権（および天皇制）について概要を解説する。また、権力分立を採用している日本国の「統治機構」についても簡単に説明する。この講義をとおして、私たちの日常生活に「日本国憲法」の理念が生かされていることに気づいていただくよう努めたい。

◆到達目標

1. 日本国憲法の基本原理を説明できる
2. 憲法と日常生活のかかわりを説明できる
3. 判例(実際の事件に裁判所がどのように判断したか)を知る

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価方法などの説明	予習 ニュースなどで、憲法にかかわりそうな身近な問題を考えておく (20分)
			復習 社会生活の中の様々な問題に興味を持つ (20分)
2	憲法とは何か？ 憲法の特質	憲法が最高法規であることと、その実質的根拠について理解する	予習 日本国憲法の前文を読んでおく (20分)
			復習 最高法規の意味と根拠を理解する (30分)
3	権力分立と統治機構	立法・行政・司法という統治の機構の全体像を把握する	予習 権力分立の意味を調べておく (20分)
			復習 国会と、内閣の役割を説明できる (30分)
4	裁判員制度	裁判所の果たす役割と、裁判の国民参加の意味を考える。	予習 裁判員制度と、裁判所とは何か調べておく (20分)
			復習 裁判員制度、裁判所の役割を説明できる (20分)
5	人権の歴史・日本国憲法史	人権の歴史を理解し、日本国憲法の基本原理を大日本帝国憲法との比較により把握する	予習 新旧両憲法を対比して調べておく (20分)
			復習 人権の歴史的発展を理解し、日本国憲法の位置づけを把握する (30分)
6	憲法改正・天皇制	第96条の憲法改正手続きを知ることにより「憲法改正の限界」について理解する。また、日本国民統合の「象徴」である意味や国事行為の性質を理解する	予習 象徴の意味を調べておく (20分)
			復習 国民と天皇の関係を説明できる (20分)
7	国民主権の意義	「主権が国民にある」ことの意味を理解する	予習 主権とは何か、調べておく (20分)
			復習 主権者の役割を理解する (20分)
8	国際協調主義と平和主義	憲法前文・憲法9条の意義について理解するとともに、国際社会の中の日本のありようを理解する。	予習 9条と平和の意味を考える (30分)
			復習 「平和」な日本・世界をつくるためには何が必要か考える (30分)
9	個人の尊重と幸福追求権	生命・自由及び幸福追求に対する国民の権利について考える	予習 自分にとっての「幸福追求」とは？(30分)
			復習 幸福追求権の重要性を理解できる (30分)
10	「新しい人権」	日本国憲法制定後に、主張されるようになった、いわゆる「新しい人権」について考える	予習 「新しい人権」には何かがあるか (20分)
			復習 「新しい人権」が出現の背景を説明できる (20分)
11	平等について	憲法14条「法の下での平等」と、多様性や「共生/共存社会」のつながりについて理解する	予習 「差別された」「不平等」と感じた事柄を思い出しておく (20分)
			復習 「平等」の様々な意味について説明できる (30分)
12	思想良心の自由と学問の自由	精神的自由について理解する (1) 憲法19条「思想良心の自由」・憲法第23条「学問の自由」	予習 精神的自由の必要性を考えておく(20分)
			復習 思想良心の自由・学問の自由の意義を理解する (20分)

13	表現の自由	精神的自由について理解する (2) 憲法 21 条「表現の自由」	予習 自分に身近な「表現」を挙げてみる (20 分)
			復習 表現の自由の重要性を理解できる (30 分)
14	信教の自由	精神的自由について理解する (3) 憲法 20 条「信教の自由」	予習 日本人の (または自分の) 宗教観について考えておく (20 分)
			復習 信教の自由の重要性を理解できる (30 分)
15	生存権・教育を受ける権利	社会権の中の「生存権」(憲法 25 条)、「教育を受ける権利」(憲法 26 条)について理解する	予習 「生存権 (生活保護など)」「教育」の果たす役割を考える (20 分)
			復習 「生存権」の重要性を説明できる (30 分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所

教科書は使用しない。プリントを配布する。

◆参考書

書名	著者	発行所
読むための日本国憲法	東京新聞政治部	文春文庫

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	60%	小テスト	
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	40%		

(補足) 小テストを適宜行う。「定期試験」には小テストの類題が多く出るので注意

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法
アンケートなどを実施する予定

◆受講上の注意事項及び助言

◆オフィスアワー

受付時間： 出講日に受け付ける

受付場所： 学務課または授業後

上記で対応できない場合：状況に応じて個別に判断する

社会学 (2単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期
 担当者氏名 佐藤 知菜

◆授業概要

現代社会における諸問題について、歴史的展開を踏まえて、社会的に捉える方法を学ぶ。私たちが普段何気なく用いている「社会」という言葉を、「人と人との間にある相互行為」として定義し、諸現象を人と人との相互行為あるいは相互作用の中にあるものとして考える方法を提示する。

各回では、具体的な現象を取り上げると同時に、社会学の理論・概念を解説する。様々な物事を、どこか遠くで起こっているものとしてではなく、身近なものとして理解し考えることができるように、適宜、簡単な調べ学習や、グループ・ディスカッションの時間を設ける。

◆到達目標

1. 人間の基盤であり、大きな影響を与える「社会」について学習する。
2. 生活の中で生じる諸問題を、人と人との関係の内で捉え返し、理解することができる。
3. 社会学の基本的な理論・概念を修得する。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	オリエンテーション・社会学とは何か	授業概要と、社会学の誕生	予習 シラバスに目を通す (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
2	社会調査の方法	社会について分析・考察するための方法	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
3	相互行為と自己	自己の成り立ちと社会との関係	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
4	家族 (1)	近代家族の成立	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
5	家族 (2)	家族関係において生じる諸問題	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
6	地域 (1)	地域社会の重層性	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
7	地域 (2)	地域と生活・コミュニティ	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
8	ジェンダーとセクシュアリティ	性と社会	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
9	社会階層と格差	階級・階層と格差の形成	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
10	教育	学校化社会と教育・格差	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
11	労働	近代的価値としての労働	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
12	エスニシティ	エスニシティという考え方	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
13	国家	近代的国家の成立	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)

14	医療と福祉	近代医療の誕生とケア	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)
15	食と社会	「食べる」ことを取り巻く社会関係	予習 配布資料の精読 (30分)
			復習 事例の読解 (30分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
講義ごとに資料を配布する。		

◆参考書

書名	著者	発行所
社会学	長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志	有斐閣
Do! ソシオロジー ——現代日本を社会学で診る [改定版]	友枝敏雄・山田真茂留 編	有斐閣
食科学入門	朝倉敏夫・井澤裕司・新村猛・和田有史 編	昭和堂

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	70	小テスト	0
レスポンス・シート	10	実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)

- ・最終試験では、用語問題と論述問題を出題する。
- ・各回において、レスポンス・シートの提出/調べ学習/グループ・ディスカッションを要求する。それをもって、レスポンス・シート、学習に取り組む姿勢・意欲、実技の評価とする。それぞれ、「授業内容を踏まえた感想を述べているか」、「社会現象について具体的に詳しく調べることができているか」、「積極的に意見を述べているか」について評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ・授業内で実施する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・第4回以降では、各テーマについて、各自、興味のある具体的な社会現象について調べ、予習・復習を行うことを強く勧める。

◆オフィスアワー

受付時間：出校日

受付場所：学務課

上記で対応できない場合：メール。メールアドレスは初回にて通知。

化学 (2単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期
担当者氏名 鈴木 等

◆授業概要

化学は、物質を対象とした学問であり、物質の成り立ちや性質あるいは化学反応を知るための基礎となる科目である。本学の管理栄養学科および食品学科では、2年次以上で栄養および食にかかわる講義と実験ならびに実習を習得させ、各学科にふさわしい資質をもった学生を育成するための教育を行っている。それらの科目を理解するために必要なのが化学であり、重要な基礎必修科目であることを認識し、受講すること。

授業では、初回到授業用プリントを配布し、それに基本に講義を進める。授業内容としては、物質と粒子、それを構成する原子の構造、分子の形とその性質や反応などについて行う。授業内容の理解度や勉学状況を知るために、随時、練習問題を行う。これを基本とし定期試験し評価する。

◆到達目標

1. 物質の構成と化学結合・物質の変化について理解し、科学的な問題解決に利用できる。
2. イオンや分子およびその化学式や構造式が書け、化学反応と物質量の関係を説明できる。
3. 酸や塩基とその反応および酸化や還元反応を理解し、化学量論的な計算をすることができる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	物質の構成	元素、名称、元素記号、単体、化合物、同素体	予習 入学前に配布したプリントを解いてみる。 元素記号1~20の元素名を調べ覚える (210分) 復習 1~3周期の元素記号と名称を覚え、物質が元素から構成されていることを理解する (60分)
2	原子の構造	原子と表記法、原子核、電荷、電子殻、電子配置、価電子	予習 原子モデルの表し方を調べる (60分) 復習 原子の構成および電子配置や価電子と元素の性質との関連を理解する (60分)
3	周期表	名称、存在比、周期と族、分類、化学的特長、物性	予習 周期表と物質の性質の関係を調べる (60分) 復習 1~3周期の元素名を覚え、周期表の構成を知り、元素の化学的な特徴を知る (60分)
4	イオン	名称、価数、イオン式、イオンの化合物と名称、イオン結合	予習 イオン結合している物質を調べる (60分) 復習 イオンの表示法、イオン結合からなる化合物とその名称を覚える (60分)
5	分子の構造	化学式 (分子式、示性式、電子式、構造式)、原子価、分子の極性、電気陰性度	予習 電子式の書き方を調べる (60分) 復習 分子の表示法とさまざまな化学式、それぞれの特徴と意義を覚え、理解する (60分)
6	化学結合	共有結合、炭素の混成軌道、配位結合、分子間相互作用	予習 共有結合、特に炭素-炭素結合について調べる (30分) 復習 簡単な分子を形成する化学結合と分子間に働く力の関係を整理する (90分)
7	物質の状態	物質の三態、ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式	予習 気体、液体、固体と熱の関係を調べる (60分) 復習 ボイル・シャルルの法則の式を用いて例題を解く (60分)
8	溶液	溶媒、溶質、溶解度、電解質、非電解質、コロイド溶液	予習 溶液とは何か、種類や性質について調べる (60分) 復習 溶媒と溶質および溶液、さまざまな溶液の特徴と性質を覚える (60分)
9	物質量	粒子の相対質量、原子量、分子量、式量、モルとモル質量	予習 物質量 (mol) について調べる (60分) 復習 式量や分子量の求め方、溶液の濃度の計算方法を覚える (60分)
10	化学反応と反応式	物質の化学反応、反応式、化学量論	予習 化学反応式の書き方を確認する (60分) 復習 化学反応式が書けるようにし、化学反応式の量的関係を利用して演習問題を解く (90分)
11	化学反応と反応熱	反応熱、熱化学方程式	予習 反応熱について調べる (60分) 復習 発熱反応、吸熱反応の熱化学方程式が理解できるようにする (60分)

12	酸と塩基 I	酸・塩基の定義、pH、塩	予習 pH とは何か、調べる (60分)
			復習 酸・塩基の定義、酸・塩基の種類と化学式、その強さの表示法を整理する (90分)
13	酸と塩基 II	酸・塩基の価数、中和反応と滴定	予習 中和反応で生じる物質は何か調べる (60分)
			復習 酸と塩基の価数、中和反応と指示薬、中和反応の量的関係を理解する (90分)
14	酸化と還元 I	酸化・還元の定義、酸化数、金属のイオン化と酸化還元	予習 酸化すること還元することで何が変化するか、調べておく (60分)
			復習 酸化・還元と酸化数の関係を覚える (90分)
15	酸化と還元 II	酸化・還元反応、酸化剤・還元剤、電池	予習 酸化数の数え方を確認しておく (60分)
			復習 酸化・還元反応の反応式を書いてみる酸化剤・還元剤を確認する (90分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所

授業内容をプリントにして配布し、それをテキストとして使用する。

◆参考書

書名	著者	発行所
高等学校理科用教科書 化学基礎	辰巳 敬他	数研出版
高校とってもやさしい化学基礎 改訂版	柿澤 壽	旺文社
ニュートン超図解新書 最強に面白い化学	桜井 弘	ニュートンプレス
基礎化学 (栄養科学イラストレイテッド)	土居 純子	羊土社
食を中心とした化学 第5版	北原重登・塚本貞次・野中靖臣・水崎幸一	東京教学社

◆関連科目

化学入門、有機化学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	80	小テスト	20
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲			

(補足) 私語など授業の進行を妨げる行為については指導し、改善が見られない場合は、減点の対象にします。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

配布した練習問題のプリントは授業で答え合わせをする。

小テストは採点后、授業で模範解答と共に返却し、解説をする。

◆受講上の注意事項及び助言

授業を集中して聞くことが重要。どこ (何) が分からないかを明らかにし、質問あるいは自習・復習する努力をすること。理解できないところは質問し、練習問題で間違えたところは、必ずチェックすること。化学を効率良く学習するコツは、目で読むだけでなく、声に出して読み、手で書くことも一つの方法です。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業終了後～17:00

受付場所： 教室または1号館3階 理化学研究室

上記で対応できない場合： 電子メールで質問を受け付けます。

生物学 (2単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期
 担当者氏名 酒井 秀嗣

◆授業概要

生物の体は細胞を単位としてできていて、おのおの細胞は生命体としての基本的な要件を備えている。この授業では、まず細胞の構造と機能を学ぶ。次いで、細胞の増殖と分化および多細胞生物の階層性を学ぶ。さらに個体調節の基礎となる細胞同士のコミュニケーションや異化作用によるエネルギーの獲得を理解する。これらの学習をとおして本講義以降の専門授業を学ぶための基礎を身につける。

講義は視聴覚メディア(PowerPoint)を主体に板書を併用して行う。教科書にない図表等は電子ファイルとして提供する。自身の学習に活用して欲しい。

◆到達目標

1. 細胞の構造と機能を理解する
2. 細胞を基礎とした多細胞生物の構造を理解する
3. 細胞間のコミュニケーションと情報の統合を理解する
4. 生命に対する理解を深める

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	0. はじめに 1. 生命とは何か	0-1) 授業の進め方、学習の方法、成績評価	予習
		0-2) 科学の方法 1. 生命に対するさまざまな概念	復習)・教科書 pp. 3-13 を読む。 ・教科書 p. 10 の(1)-(6)の内容を理解する。(90)
2	2. 生物を構成する物質	2-1) 生物を構成する元素と分子	予習
		2-2) 有機物と無機物 2-3) 水の性質と働き 2-4) タンパク質	復習・配付資料に基づいて生体を構成する物質について理解を定着する。 ・教科書 p. 30 を読み水の重要性を理解する。 ・教科書 pp. 31-32 および配付資料によってアミノ酸について整理し、立体異性体とペプチド結合を理解する。(90)
3	2. 生物を構成する物質	2-4) タンパク質	予習
		2-5) 糖質(炭水化物) 2-6) 脂質	復習・教科書 pp. 32-33 および配付資料により、タンパク質の構造、機能、変性を理解する。 ・教科書 pp. 35-36 および配付資料により、単糖の構造と立体異性体を理解する。 ・単糖から多糖類までを整理する。 ・脂質とは何かを理解する。 ・脂肪酸を理解する(120)
4	2. 生物を構成する物質	2-6) 脂質	予習・教科書 pp. 33-37 を読む。(30)
		2-7) 核酸	復習・リン脂質、糖脂質、ステロイドを理解する。 ・ヌクレオチドと核酸を理解する。 ・遺伝子としての DNA の構造と遺伝暗号を理解する。 ・ATP と高エネルギーリン酸結合を理解する。 ・酵素反応に関わるヌクレオチドを理解する。(120)
5	2. 生物を構成する物質 3. 生命の起源	2-8) ビタミン	予習・教科書 pp. 37-39, 121-122 を読む。(30)
		2-9) 無機物 3-1) 化学進化	復習・教科書 p. 41 および配付資料によりビタミンの働きを具体的に理解する。 ・主な無機物の働きを整理する。 ・生命誕生に必要な有機物合成に関する仮説を理解する。(120)
6	3. 生命の起源	3-2) 生命の誕生	予習・教科書 pp. 28-29, 123-124 を読む。(30)
		3-3) 細胞進化 3-4) 原核細胞と真核細胞 3-5) 細胞共生 3-6) 多細胞化	復習・コアセルバートから細胞への仮説を理解する。 ・3つのドメイン(超界)を理解する。 ・核膜の出現を理解する。 ・原核細胞と真核細胞の主な違いを理解する。 ・細胞共生を理解する。 ・単細胞から多細胞への仮説を理解する。(120) ・第1回目のレポート作成を行う。(210)

7	4. 細胞の構造と機能	4-1) 真核細胞の概略 4-2) 細胞膜	予習・教科書 pp. 19-24 を読む。(30)
			復習・真核細胞の構造のあらましを理解する。 ・細胞膜の構造と流動性を理解する。 ・配付資料によって浸透圧を理解し、細胞膜の半透性と選択的透過性を理解する。(120)
8	4. 細胞の構造と機能	4-3) 細胞核	予習
			復習・核膜と核膜孔、核ラミナ、核小体といった構造を理解する。 ・染色体の構造を理解し、核内のユークロマチンとヘテロクロマチンを電子顕微鏡像で区別する。 ・核小体でのリボソーム形成を理解する。(90)
9	4. 細胞の構造と機能	4-4) 細胞小器官 4-5) 小胞輸送	予習
			復習・粗面小胞体、滑面小胞体、ゴルジ体、リソソーム、リボソームの構造と働きを整理して理解する。 ・ミトコンドリアと葉緑体について理解する。 ・膜構造を持つ小胞による物質の輸送を理解する。(120)
10	4. 細胞の構造と機能	4-6) 三大栄養素の異化 (エネルギー獲得)	予習・教科書 pp. 42-48, 75-79 を読む。(60)
			復習・グルコースの代謝経路を理解する。 ・ミトコンドリアにおけるクエン酸回路と電子伝達系および酸化リン酸化を理解する。 ・アミノ酸と脂肪酸の異化を理解する。 ・真核生物が進化の過程でミトコンドリアを獲得した利点を考える。(120) ・第2回のレポート作成を行う。(210)
11	5. 生物の階層性	5-1) 細胞の分化 5-2) 動物の組織 5-3) 器官系と属する器官 5-4) 3つの胚葉と器官形成	予習・教科書 pp. 13-15, 63-70 を読む。(60)
			復習・細胞の分化を理解する。 ・動物の4つの組織とその分類を知る。 ・講義では教科書に記載されている器官系を紹介するので、その働きの概略を読み解く。 ・発生による器官の形成を理解する。(90)
12	6. 細胞分裂	6-1) 体細胞分裂と減数分裂 6-2) 細胞周期 6-3) 配偶子形成 6-4) DNA の複製	予習・教科書 pp. 26-27, 54-58, 113-114 を読む。(60)
			復習・体細胞分裂と減数分裂の違いを理解する。 ・卵形成と精子形成の共通点と異なる点を理解する。 ・細胞周期における細胞あたりの DNA 量の変化を理解する。 ・細胞周期での DNA の複製法を理解する。(90)
13	7. 細胞間の情報伝達	7-1) cell to cell communication 7-2) 情報連絡の特異性 7-3) 内分泌系	予習・教科書 pp. 92-95 を読む。(60)
			復習・細胞間の情報伝達を理解する。 ・内分泌器官の分類を理解する。 ・ホルモン分子の化学的分類を理解する。 ・ホルモンの作用の仕方を理解する。(90)
14	7. 細胞間の情報伝達	7-4) 神経系 7-5) ホメオスタシス	予習・教科書 pp. 83-86, 90-91, 95-100 を読む。(90)
			復習・神経細胞の情報伝達を理解する。 ・自律神経の働きを理解する。 ・神経系と内分泌系による体内環境の調節を理解する。(90)
15	7. 細胞間の情報伝達 8. 総まとめ	7-6) 免疫系 7-7) フェロモン 8-1) 総まとめ	予習・教科書 pp. 102-108 を読む。(60)
			復習・生体防御システムを理解する。 ・免疫細胞の情報伝達と分化を理解する。(90) ・授業全体を振り返り、扱った生命現象から生命とは何かを自分なりに考える。(210)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
ヒトを理解するための生物学	八杉貞雄	裳華房

◆参考書

書名	著者	発行所
ワークブック ヒトの生物学	八杉貞雄	裳華房

上記参考図書は、図書館に配本されている。

このほか、高校の生物の授業で補助教材として用いた「図録」等があるなら、手元に置くと良い。

◆関連科目

管理栄養学科：栄養生化学Ⅰ、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、食品学総論Ⅰ
 食品学科：生化学Ⅰ・Ⅱ、人体の構造と機能、食品学総論Ⅰ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲		ミニットペーパー (minute paper)	30

(補足) ミニットペーパーは数分で解答できるドリルなどで、授業の振り返りや理解度の判定に活用できる。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートについては解説と講評を行う。但し、評価点は公表しない。
 ミニットペーパーは課題によって異なるが、正解の提示や解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

1. 今までの経験では、授業中は直ぐに筆記できるように常にノートを開いて鉛筆を持っている学生は、総じて成績が良かったと思います。
2. 高校の副教材として使われている図録集などは参考になります。持っていたら活用してください。
3. 授業の内容は平易ですが、広範囲にわたるので分量が多くなります。復習は必須です。分からないところは放置しないで、質問するなどしてその都度解決してください。

◆オフィスアワー

受付時間： 学務課に相談して下さい
 受付場所： 学務課
 上記で対応できない場合：授業の際に申し出て下さい

情報処理演習 I (2単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期～後期

担当者氏名 岡本 直也

◆授業概要

今日の IT 社会において情報処理技術を身につけることは必要不可欠であり、パソコンと向き合うことを避けては通れない。本授業では、パソコンの基本ソフトである Windows の機能と操作方法および電子メール・パソコン周辺機器の使い方を一通り学習した後、検索エンジンを利用して目的にあった情報を効率よく集める「情報収集」、Office・画像編集ソフトを利用した「情報編集・加工」の活用方法を習得する。後期は、Excel の数式入力的前提知識として必要となる、基礎的な数学演習も行う。授業計画と並行して、e-learning を利用したショートカットキー、タッチタイピング、数学演習を繰り返し行う。授業は各回、パソコンを用いた演習形式で行われ、一人一人のペースに応じて課題を進める。

◆到達目標

1. Windows、Office、パソコン周辺機器の基本的な操作ができる。
2. Word、Excel に関する用語および操作方法が説明できる。
3. パソコン操作、疑問・トラブルを情報検索等により効率的に処理することができる。

◆授業計画 (前期)

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	ガイダンス	パスワード変更、Web メール、添付ファイル	予習 「情報システム利用手引き」を読み、学内 LAN の利用ルールを理解する。(20分) 復習 ログイン・パスワード変更・メールの送受信方法を実践して覚える。(20分)
2	電子メール、周辺機器の利用方法	携帯電話へのメール転送、プリンタ、スキャナ、USB メモリ	予習 スキャナ・プリンタの種類・利用方法を調べる。(20分) 復習 自動転送メールが携帯電話で受信できることを確認する。携帯電話を用いて大学のメール (送受信) を利用する。(20分)
3	Word 基本操作	文書作成、画像の挿入、印刷	予習 Word の機能 (書式、写真の挿入等) を調べる。(20分) 復習 Word で写真入りの文書を作成し、カラー印刷する。(20分)
4	Windows の基本操作、タイピング	デスクトップ、マウス、キーボード、ショートカットキー、タッチタイピング	予習 Windows、OS の機能・バージョンによる違いを調べる。(20分) 復習 ショートカットキー・タイピングを e-learning により反復学習する。以後、e-learning による学習は日々行い、身につけること。(40分)
5	Windows 基本操作	ファイル操作、検索、スクリーンショット	予習 ファイルのコピー・移動・削除、検索方法を調べる。スクリーンショットのソフトウェアを調べる。(20分) 復習 ファイル・フォルダ操作を実践して覚える。必要な情報にたどり着く検索方法を身につける。(20分)
6	Windows 基本操作	アプリケーションソフト	予習 Office 以外のソフトウェア・フリーソフトを調べる。(20分) 復習 実習室 PC にインストール済みのソフトウェアを起動し、機能を把握する。(20分)
7	文書の作成	入力方式、入力モード、単語登録、オートコレクト、文書の保存	予習 教科書 p1～78 (第1～2章) の手順および HINT・POINT 等を理解する。(30分) 復習 画面構成・リボン・タブ・キーの名称を覚える。入力方式・変換方法を理解する。(30分)

回	項目	内容	予習・復習（標準的な所要時間）
8	文書の作成、修正	書式、箇条書き、インデント、アイコンの挿入、印刷、文書の再利用、コピー、切り取り、貼り付け、置換	予習 教科書 p79～124（第3～4章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（40分）
9	表を使った文書	表の挿入、罫線の種類・削除、行/列の挿入・削除、幅の調整、計算式、関数、表示形式	予習 教科書 p125～154（第5章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（40分）
10	年賀状の作成	年賀状作成、ワードアート、テキストボックス、画像挿入、トリミング、文字列の折り返し、宛名印刷、住所録の読み込み	予習 教科書 p155～184（第6章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（40分）
11	メニュー表の作成、レイアウトを整える、Word を使いこなす	段組み、書式のコピー/貼り付け、タブとリーダー、ページ罫線、ヘッダー、フッター、テンプレート、コメントの挿入、変更履歴の記録/承諾、文書の暗号化	予習 教科書 p185～236（第7～8章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（40分）
12	ほかのソフトウェアとデータをやりとりする、クラウドで使いこなす	Excel グラフの貼り付け、地図の貼り付け、PDF 形式で保存、OneDrive に保存、Word Online、モバイルアプリ、文書の共有	予習 教科書 p237～309（第9～10章、付録）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（40分）
13	課題作成	情報収集、画像処理	予習 写真の収集・イラストを作成する。（30分）
			復習 学習した内容を活かして文書を作成し、印刷する。（30分）
14	課題作成	Word の機能を多用した文書作成、卒論フォーマットの作成	予習 配布資料により、教科書で学習していない Word の機能を理解する。（30分）
			復習 Word の機能を一通り理解して使いこなす。（30分）
15	総合演習	e-learning	予習 e-learning による反復学習をする。（40分）
			復習 Windows、Word、ショートカットキーを使いこなす。（20分）

◆授業計画（後期）

回	項目	内容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ガイダンス	Excel 2019 の特徴、新機能、ショートカットキー	予習 教科書 p1～38（第1章）の手順、画面構成・用語を理解する。（20分）
			復習 Excel の用途・機能を理解する。（20分）
2	基礎数学演習	Excel 指数表示、有効数字、割合、税計算、損益算、濃度算	予習 基礎数学演習の問題を解く。（30分）
			復習 Excel の数式入力に必要な数学の知識を身につける。（30分）
3	基礎数学演習	e-learning による数学演習	予習 e-learning による反復学習を行う。（20分）
			復習 問題の効率的な解き方を覚える。（40分）
4	データ入力、セル・ワークシートの操作	データ入力と編集、オートフィル、オートコンプリート、コピー、貼り付け、行/列の挿入、削除、ブックの保存	予習 教科書 p39～92（第2～3章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（30分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（30分）

回	項目	内容	予習・復習（標準的な所要時間）
5	数式と関数、表のレイアウト	数式、関数、数式のコピー、絶対参照、相対参照、セルの書式設定、罫線	予習 教科書 p93～144（第4～5章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（30分）
6	印刷とページ設定、表を整える	印刷プレビュー、ヘッダー、フッター、印刷、表示形式、ユーザー定義書式、条件付き書式、データバー、スパークライン、クイック分析	予習 教科書 p145～184（第6～7章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（30分）
7	グラフの作成、データベースの作成	グラフ作成、書式設定、グラフの印刷、データベースの利用、データのソート、フィルター、改ページプレビュー、ウィンドウ枠の固定、フラッシュフィル	予習 教科書 p185～230（第8～9章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（30分）
8	Excel を使いこなす、クラウドで使いこなす	テンプレート、リボンのユーザー設定、ブックの暗号化、PDF 形式で保存、OneDrive に保存、Excel Online、モバイルアプリ、ブックの共有	予習 教科書 p231～311（第10～11章、付録）の手順および HINT・POINT 等を理解する。（40分）
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。（30分）
9	数式・関数の習得	数学/三角関数、論理関数、データベース関数、ワイルドカード	予習 教科書で学習していない Excel 関数を調べる。（30分）
			復習 「？」「*」の使い方を覚える。（30分）
10	数式・関数の習得	INT、ROUND、ROUNDDOWN、ROUNDUP、COUNT、COUNTA 等	予習 左記関数の意味と使い方を調べる。（30分）
			復習 左記関数と引数を理解し、使い方を覚える。（30分）
11	数式・関数の習得	MAX、MIN、IF、IFS、AND、OR、COUNTIF、COUNTIFS、COUNTBLANK、RANK.EQ、RANK.AVG、AVERAGEIF、AVERAGEIFS、SUMIF、SUMIFS 等	予習 左記関数の意味と使い方を調べる。（30分）
			復習 左記関数と引数を理解し、使い方を覚える。（30分）
12	総合演習	構成比、表示形式、消費税、原価、利益、成績判定	予習 第2回～3回基礎数学演習の内容を理解する。（30分）
			復習 左記を求めるための数式入力を実践して覚える。（30分）
13	総合演習	食塩相当量、エネルギー、BMI、適正体重、低体重/普通/肥満の判定	予習 第2回～3回基礎数学演習の内容を理解する。（30分）
			復習 左記を求めるための数式入力を実践して覚える。（30分）
14	総合演習	情報関数、配列数式、金利の計算、日本食品標準成分表を用いた計算 ISNUMBER、ISBLANK、VLOOKUP、IFERROR、ABS、LEFT、RIGHT、MID 等	予習 第9回～13回の関数・使い方を覚える。（30分）
			復習 左記を求めるための数式入力を実践して覚える。（30分）
15	総合演習	e-learning	予習 e-learning による反復学習をする。（20分）
			復習 Excel、ショートカットキーを使いこなす。（20分）

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
できる Word 2019	田中亘, できるシリーズ編集部	インプレス
できる Excel 2019	小舘由典, できるシリーズ編集部	インプレス

◆参考書

書名	著者	発行所
できる Windows 10 2021 年 改訂 6 版	法林岳之, 一ヶ谷兼乃, 清水理史, できるシリーズ編集部	インプレス
できる Excel 関数 データ処理の効率アップに役立つ本	尾崎裕子, できるシリーズ編集部	インプレス

◆関連科目

情報処理演習Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	30
学習に取り組む姿勢・意欲			

(補足)

- 前後期各 15 回の授業すべてに遅刻をせずに出席し、他の受講者の学習環境に配慮しつつ、堅実に取り組むことを前提として、「成績評価の方法・基準」により評価する。
- 予習・復習用の教材およびスマートフォンで練習できる e-learning 教材を用いて授業時間外の学習を行う。(スマートフォンを所有していない場合は別途対応)
- 定期試験は、授業内および予習・復習用教材で扱った問題から出題され、パソコンを用いた実技および筆記試験を併用して行う。
- 「実技」は、パソコン操作 (ショートカットキー、タイピング、受講態度等)、小テストにより評価する。小テスト (筆記・e-learning) は不定期に複数回行う。
- 授業内で作成する課題を「レポート」点として評価する。成果物の完成度のみならず、作成過程 (予習・復習をした上で効率よく作成できるか等) を重視する。
- ICT 授業支援システムを用いて、授業の理解度把握および質問受付を行う。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

課題ファイルに修正が必要な場合は、学生個別に解決策を提示し、再提出を求める。

◆受講上の注意事項及び助言

- 演習は、学生ファイルサーバ
¥学生共通¥全学年学生共通¥情報処理演習 2024
のシラバスにしたがって進める。
- 第 1 回授業で質問用の電子メールアドレスを周知する。

◆オフィスアワー

受付時間：月～木曜日、16：10～17：00

受付場所：情報処理研究室

上記で対応できない場合：電子メールで質問を受け付ける。(曜日・時間は問わない)

体育実技

(1 単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1 年・前期
 担当者氏名 膳法 浩史

◆授業概要

身体活動は、身体の発育・発達を促し、健康を維持・増進させる。また、適度な運動は精神的なストレスも解消させる。しかしながら、身体活動は習慣化していないとその効果はすぐに消失してしまう。したがって、身体活動の習慣化は健康管理に重要である。また、一生涯において身体活動を継続するためには、生涯スポーツとの関わりは重要である。

本授業では、まず自身の体力を知り、その向上のための積極的な身体活動の方法を学び、そして身体活動の習慣化を目指す。授業は、基本的に体育館における実践形式とする。

◆到達目標

1. 自分の体力レベルを把握し、その向上に努める。
2. 日常生活に身体活動を取り入れ、習慣化を図る。
3. 身体活動の種類と、それらのエネルギー消費量の違いを理解する。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	ガイダンス	体育館にて体育実技の実施場所・実施方法などを説明する 目標を設定する	予習 シラバス・学生便覧を読むこと (30分)
			復習 自宅周辺でウォーキング可能な経路を調べる (30分)
2	体力測定	体力測定 (文科省新体力テスト) 体組成測定	予習 文科省新体力テストの実施方法を調べる (60分)
			復習 最大酸素摂取量の推定方法をまとめる (60分)
3	ウォーキング① 身体トレーニング① 運動強度	自体重を用いた運動トレーニング 様々な身体活動のメッツ強度を理解する バドミントン	予習 「改訂版 身体活動のメッツ (METs) 表」を読む (60分)
			復習 身体活動によるエネルギー消費量の計算方法を復習する (30分)
4	ウォーキング② 身体トレーニング②	自体重を用いた運動トレーニング バスケットボール	予習 インナーマッスルについて調べる (60分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)
5	ウォーキング③ 身体トレーニング③	自体重を用いた運動トレーニング ソフトバレー	予習 スクワットの方法及び姿勢 (30分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)
6	ウォーキング④ 身体トレーニング④	自体重を用いた運動トレーニング フットサル	予習 ランジの方法 (30分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)
7	ウォーキング⑤ 身体トレーニング⑤ 疼痛予防	自体重・チューブを用いた運動トレーニング ティーボール 腰痛リスクの予防・回避	予習 チューブを用いたニーエクステンションの方法 (30分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)
8	ウォーキング⑥ 身体トレーニング、ダンス	自体重・チューブを用いた運動トレーニング ダンス	予習 アームレッグクロスレイズの方法 (30分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)
9	ウォーキング⑦ 身体トレーニング⑦ アダプテッドスポーツ	自体重・チューブを用いた運動トレーニング インディアカ	予習 チューブを用いたスクワットの方法及び姿勢 (30分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)
10	ウォーキング⑧ 身体トレーニング⑧	自体重・チューブを用いた運動トレーニング トレーニングのアレンジ、卓球	予習 チューブを用いたニーアップの方法 (30分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)
11	ウォーキング⑨ 身体トレーニング⑨	自体重・チューブを用いた運動トレーニング トレーニングのアレンジ、バドミントン	予習 フレンチプレスの方法及び姿勢 (30分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)
12	ウォーキング⑩ 身体トレーニング⑩	自体重・チューブを用いた運動トレーニング トレーニングのアレンジ、バスケットボール	予習 ツイストアップの方法及び姿勢 (30分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)
13	ウォーキング⑪ 身体トレーニング⑪	自体重・チューブを用いた運動トレーニング トレーニングのアレンジ、ソフトバレー	予習 ブランクの方法及び姿勢 (30分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)

14	実技テスト	疼痛予防・回避のテスト 自体重を用いた筋力トレーニングのテスト インディアカ	予習 体力測定の結果を確認する (30分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)
15	まとめ	トレーニングとその効果 フットサル・3色鬼ごっこ	予習 様々な筋力トレーニングのメツ強度を確認する (30分)
			復習 自宅でのトレーニング (30分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所

◆参考書

書名	著者	発行所
障害者スポーツの環境と可能性	藤田紀昭	創文企画

◆関連科目

保健体育、スポーツ・リクリエーション

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	10
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	50
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

(補足) レポートは、ウォーキング課題の成果とする。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートに対するフィードバックは、体力測定 (ポスト) 結果へのコメントとともにを行う。

◆受講上の注意事項及び助言

体育館を中心に運動を行うため、運動しやすい服装と内履き靴、飲み物の準備をしておくこと。
体調が悪い場合は、授業前に申し出ること。

◆オフィスアワー

受付時間： 開講時に指示する

受付場所： 6号館2階体育学研究室

上記で対応できない場合： 第1回授業で質問用の電子メールアドレスを周知する。

スポーツ・リクリエーション

(1単位)

(管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1-4年・前～後期

担当者氏名 膳法 浩史

◆授業概要

生涯にわたって楽しむことができるスポーツやリクリエーションを身につけると生活が豊かになる。本講座は、下記の内容を行う。

- ①ウォーキングラリーの体験と提案
- ②チームビルディングイベントの体験と提案

実習は、教室、体育館およびイベント会場で実施する。

◆到達目標

1. リクリエーション活動に積極的に取り組む。
2. スポーツ・リクリエーションイベントの提案ができる。
3. スポーツ・リクリエーションイベントの運営ができる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	ガイダンス	日時は履修登録者に対してメールで連絡を行う	予習 ウォーキングラリーについて調べる(60分)
			復習 会場までの道順を調べる(30分)
2	ウォーキングラリー①	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 会場周辺の情報を調べる(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(60分)
3	ウォーキングラリー②	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを確認する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(30分)
4	ウォーキングラリー③	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 参加者のコメントを確認する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(60分)
5	ウォーキングラリー④	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを復習する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(30分)
6	ウォーキングラリー⑤	ウォーキングラリーイベントを分類し、議論する	予習 ウォーキングラリーの種類を調べる(30分)
			復習 議論した内容をまとめる(60分)
7	ウォーキングラリー⑥	東京聖栄大学を会場としたウォーキングラリーイベントを提案する	予習 ウォーキングラリーイベントを考える(60分)
			復習 提案した内容をまとめる(60分)
8	チームビルディング①	チームビルディングの基礎	予習 チームビルディングを調べる(60分)
			復習 用語をまとめる(30分)
9	チームビルディング②	チームビルディングの種類	予習 チームビルディングの種類を調べる(60分)
			復習 用語をまとめる(30分)
10	チームビルディング③	チームビルディングイベントの運営	予習 イベント運営の方法を調べる(60分)
			復習 イベント運営の心得をまとめる(30分)
11	チームビルディング④	チームビルディングの提案、議論	予習 新しいチームビルディングを考える(60分)
			復習 提案内容をまとめる(30分)
12	チームビルディング⑤	チームビルディングの練習を行う	予習 チームビルディングの方法を確認する(60分)
			復習 流れを再確認する(30分)
13	チームビルディング⑥	チームビルディングの練習を行う	予習 担当と流れを確認する(30分)
			復習 担当と流れを再確認する(60分)

14	レクリエーションイベント運営①	3班に分かれてイベント運営を行う	予習 担当と流れを再確認する (30分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30分)
15	レクリエーションイベント運営②	3班に分かれてイベント運営を行う	予習 各班のイベントを分類する (30分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30分)

※過去のウォーキングラリー： 2022年度 神田万世橋、2021年度 学内、2020年度 舞浜イクスピアリ

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所

◆参考書

書名	著者	発行所

◆関連科目
体育実技

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	80
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)			

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートや発表に対して対面、メール、またはMoodleによって、フィードバックを行う。

◆受講上の注意事項及び助言

本実習は、集中授業であるため可能な限り欠席しないよう心掛けること。万が一、欠席する場合は個別に対応を行う。

◆オフィスアワー

受付時間： 毎回の講義終了後

受付場所： 6号館2階体育学研究室

上記で対応できない場合： 質問用の電子メール (zenpou-h@tsc-05.ac.jp) で対応する。

英語 I (1単位) (食品学科・管理栄養学科)

開講時期 1年・前期
 担当者氏名 植芝牧・田邊丈人・富樫壮央

◆授業概要

高校までに習った英文法の基礎をしっかりと固めつつ、主体的に英語に向き合い、「考える」「表現できる」英語力を身に付けることを目的とする。リーディング、リスニング、ライティングの力をバランス良く伸ばす。英単語小テストを実施し、リアクションペーパーの提出を1Unitが終わるごとに求める。

◆到達目標

1. 中級～上級レベルの200語程度の英文について辞書を参照して読み、意味内容を理解できる。
2. 60語程度の英会話を聴き、理解できる。
3. 簡単な英語センテンスを作文できる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	入学前準備教育(英語課題)の回収。ディプロマポリシーとの関連を解説	新入生全員に課された英語課題を提出。ディプロマポリシーと授業内容の関連について説明する。	予習 3月に配布された英語課題を辞書や参考書を活用して答えておく。(30分)
			復習 上記の間違っていた点を各自で復習する。(30分)
2	Unit1: What is "Black Friday"? ①	Unit1のVocabularyの空欄補充。Readingパートの音読練習と和訳	予習 p.7のVocabulary穴埋め。p.8 Readingの全文和訳。(30分)
			復習 p.8 Readingの全文和訳をやり直す。Reading Comprehensionもやり直す。(30分)
3	Unit1: What is "Black Friday"? ②	英文法(現在時制と過去時制)の復習 応用英作文練習	予習 p.10～11のGrammar問題、Writing問題に答える。(30分)
			復習 GrammarとWriting問題をやり直し、疑問点を洗い出す。(30分)
4	Unit2: What is a "leap year"? ①	Unit2のVocabularyの空欄補充。Readingパートの音読練習と和訳	予習 p.13のVocabulary穴埋め。p.14 Readingの全文和訳。(30分)
			復習 p.14のReadingの全文和訳をやり直す。(30分)
5	Unit2: What is a "leap year"? ②	英文法(未来時制と進行形)の復習。 応用英作文練習	予習 p.16～17のGrammar問題、Writing問題に答える。(30分)
			復習 GrammarとWriting問題をやり直し、疑問点を洗い出す。(30分)
6	Unit3: Why do big ceremonies have a "red carpet"? ①	Unit3のVocabularyの空欄補充。Readingパートの音読練習と和訳	予習 p.19のVocabulary穴埋め。p.20 Readingの全文和訳。(30分)
			復習 p.20のReadingの全文和訳をやり直す。(30分)
7	Unit3: Why do big ceremonies have a "red carpet"? ②	英文法(完了形)の復習。応用英作文練習	予習 p.22～23のGrammar問題、Writing問題に答える。(30分)
			復習 GrammarとWriting問題をやり直し、疑問点を洗い出す。(30分)
8	Unit4: Where did "mouthwash" come from? ①	Unit4のVocabularyの空欄補充。Readingパートの音読練習と和訳	予習 p.25のVocabulary穴埋め。p.26 Readingの全文和訳。(30分)
			復習 p.25のReadingの全文和訳をやり直す。(30分)
9	Unit4: Where did "mouthwash" come from? ②	英文法(受動態・使役動詞)の復習。 応用英作文練習	予習 p.28～29のGrammar問題、Writing問題に答える。(30分)
			復習 GrammarとWriting問題をやり直し、疑問点を洗い出す。(30分)
10	Unit5: What is a "Viking"? ①	Unit5のVocabularyの空欄補充。Readingパートの音読練習と和訳	予習 p.31のVocabulary穴埋め。p.32 Readingの全文和訳。(30分)
			復習 p.32のReadingの全文和訳をやり直す。(30分)
11	Unit5: What is a "Viking"? ②	英文法(存在構文・助動詞)の復習。 応用英作文練習	予習 p.34～35のGrammar問題、Writing問題に答える。(30分)
			復習 GrammarとWriting問題をやり直し、疑問点を洗い出す。(30分)
12	Unit6: Why are oranges "orange"? ①	Unit6のVocabularyの空欄補充。Readingパートの音読練習と和訳	予習 p.37のVocabulary穴埋め。p.38 Readingの全文和訳。(30分)
			復習 p.38のReadingの全文和訳をやり直す。(30分)
13	Unit6: Why are oranges "orange"? ②	英文法(冠詞・代名詞)の復習。英作文練習	予習 p.40～41のGrammar問題、Writing問題に答える。(30分)
			復習 GrammarとWriting問題をやり直し、疑問点を洗い出す。(30分)

14	Unit1～6 の補足	Unit1～6 の Vocabulary, Reading, Grammar etc. につき、授業を欠席して正解が分からない箇所をチェックする。	予習	欠席のため解答できていない練習問題をリストアップ (30分)
			復習	リストアップした練習問題を全てやり直す。(30分)
15	期末テスト対策	Unit1～6 の Vocabulary Check, Reading Comprehension, Writing を全て復習する。模擬テストを体験する。	予習	Unit1～6の問題を全てやり直す (60分)
			復習	授業の解説を踏まえて Unit1～6の問題を全てやり直す (60分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
Answers to Everyday Questions 2 (Pre-Intermediate)	Arnold Arao 他	南雲堂

◆参考書

書名	著者	発行所
総合英語フォレスト	石黒 昭博	桐原書店

◆関連科目

英語Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 英会話Ⅰ・Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	10
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	30		

(補足)

テキストを持参しない学生は減点対象となる。
小テストとは学習中の Unit について実施する簡単な単語テストなどのことである。
実技とは学生個々人の英語の発話能力のことである。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

中間テストや小テストは採点した上で、できるだけ翌週授業にて返却して解説する。

◆受講上の注意事項及び助言

教員による一方通行的な講義ではなく、学生と教員の双方向的な授業にする予定なので学生自身の予習は欠かせない。

中学、高校で英語が苦手だった学生でも基礎から学び直せる授業内容なので、大学一年生からでも十分英語力を着けることが可能である。そのためには15回の授業に全て出席することが重要であり、欠席者にはその都度レポート (課題) 提出を求める。再履修者も必ずテキストを購入して初回の授業に臨むように。買ってこない場合減点する。

◆オフィスアワー

受付時間：(植芝) 木曜日 16時から1時間くらい。

(富樫・田邊) 木曜昼休み。

受付場所：(植芝) 四号館英語第一研究室。

(富樫・田邊) 一号館講師控室。

上記で対応できない場合：(植芝) Email 等で予約を入れて土曜日の午後対応。

(富樫・田邊) 質問内容の文書を学務課に渡して植芝に引き継ぐ。植芝から富樫、田邊に質問内容を伝言する。

フランス語 I

(1単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期

担当者氏名 松浦 寛

◆授業概要

アルファベットから始め、本授業は、実用的なコミュニケーション能力の学習に重点を置いています。文法も単に規則の羅列として覚えるのではなく、それが使われるフレーズや状況のなかで覚えることが重要です。各課は、会話・文法・演習・読解・文化の5つのパートからなっており、これらが有機的に結びついて学習できるようになっています。CDとともにビデオを教材として利用し、耳からだけでなく、目からもフランスを身近に感じて下さい。

◆到達目標

1. 初見のフランス語をすべて発音できるようにする。
2. 初歩的な会話のやりとりができるようにする。
3. 実用フランス語検定試験5級に合格できるようにする。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	オリエンテーション	アルファベットと発音	予習 pp.2-5 なし
			復習 30分 アルファベットを覚える
2	パリ到着	人称代名詞、être の活用	予習 pp.6-9 発音の規則を覚える
			復習 30分 être の活用を覚える
3	同上	同上	予習 30分 être の用法に習熟する
			復習 30分 avoir の活用を覚える
4	ホテルで	形容詞の性・数一致、avoir の活用	予習 pp.10-13 avoir の活用を覚える
			復習 30分 形容詞の変化を覚える
5	同上	同上	予習 30分 形容詞の変化を覚える
			復習 30分 形容詞の性・数一致に習熟する
6	ランデヴー	第1群規則動詞の活用	予習 p.14-17 -er 動詞の活用を覚える
			復習 30分 -er 動詞の用法に習熟する
7	同上	同上	予習 同上 -er 動詞の用法に習熟する
			復習 30分 形容詞の位置を覚える
8	カフェで	形容詞の位置と変化	予習 pp.18-21 形容詞の変化を覚える
			復習 30分 形容詞男性第2形を覚える
9	同上	同上	予習 30分 冠詞と形容詞の語順を覚える
			復習 30分 形容詞の用法のまとめ
10	電話をかける	人称代名詞の強勢形	予習 pp.22-25 人称代名詞の強勢形
			復習 30分 強勢形の用法に習熟する
11	同上	同上	予習 同上 30分 強勢形のまとめ
			復習 30分 強勢形の用法に習熟する
12	道を探ねる	疑問代名詞、疑問副詞	予習 pp.26-29 疑問詞の形を覚える
			復習 30分 疑問代名詞の用法に習熟する
13	同上	同上	予習 同上 30分 疑問詞のまとめ
			復習 30分 疑問詞副詞の用法に習熟する
14	パリの中の日本	日仏文化交流	予習 pp.30-31 疑問詞のまとめ
			復習 30分 前期のまとめ
15	前期のまとめ	プリント等	予習 30分 前期のまとめ
			復習 30分 前期のまとめ

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
新・彼女は食いしん坊！1	藤田裕二	朝日出版社

◆参考書

書名	著者	発行所
プチ・ロワイヤル仏和辞典	倉方秀憲	旺文社
PC版・iphone・ipad版もある		

◆関連科目

なし。

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト・ノート提出	10
レポート	10	実技(発表・コミュニケーション)	30
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) 実践的な科目なので、試験とともに出欠を重視する。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

ノート提出後、内容をチェックし返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

科目の性質上、遅刻や欠席は極力避けたい。成績評価は、出欠状況を重視する。辞書は、上記紹介のもの以外でもかまわないが、2年次も使用する可能性があるため、各自で購入の上、必ず持参すること。

【辞書を持参しない者は受講できない】

◆オフィスアワー

受付時間：質問は、授業時に示す E-mail にて受け付ける。

中国語Ⅰ (1単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1年・前期
担当者氏名 崔 晨

◆授業概要

中国語は中国だけではなく、東南アジアなどの地域にも幅広く使う言語である。本授業では中国語の基礎である発音をはじめ、基礎的な会話、読解力、リスニングや文章力を身につけることを目的とする。
中国の食文化を紹介することで食に関する中国語を取り上げることも授業の一環である。

◆到達目標

1. ピンインを勉強することによって中国語の発音を基礎から正しくできる。
2. リスニングを中心に中国語の語彙を増やし、基礎的な会話ができる。
3. 中国語の基本構文を学び、基礎的な文章力を身につけることができる。日中比較視点で中国の食文化を理解することも授業目標の一つである。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	中国語への招待 ① 単母音の発音 ② 複母音の発音	①年間の授業概要や方針の説明 ②中国語の特徴及びピンインの意味 ③単母音と複母音への発音練習	予習 母音と複母音。教科書P. 11、12 読んでおくこと (60分)
			復習 中国語ピンインの復習と声調の確認 (60分)
2	ピンイン ①子音 ②声調	①子音の役割及び発音練習 ②声調の説明と発音練習	予習 発音編(第2課)を読んでおく。(60分)
			復習 教科書CDを聞き、母音と子音の練習しておく。
3	ピンイン①声調変化 ②ピンイン練習 ③中国食文化の紹介	①声調の変化。 ②ピンインについて総合的に練習 ③中国食文化の紹介①	予習 P28~32の内容を読んでおく(60分)
			復習 ピンインの組み合わせと声調を復習しておく(60分)
4	基本的な挨拶 ①挨拶 ②教室用語	①基本的な挨拶の学習 ②基本的な教室用語の紹介	予習 P28 と P34 の基本挨拶と基本教室用語の予習(60分)
			復習 簡単な挨拶と教室用語を復習しておく。(60分)
5	第5課 ①単語の学習 ②文法の学習	①第5課の単語の学習 ②人称代名詞及び疑問詞の学習	予習 第5課の単語を読んで予習しておく。(60分)
			復習 P40~41の文法を復習しておく。(60分)
6	第5課 ①本文 ②練習問題 ③中国食文化の紹介	①本文を読んで翻訳する学習 ②練習問題から応用する練習 ③中国語食文化の紹介②	予習 P39の本文を予習しておく。(60分)
			復習 第5課の練習問題を復習しておく(60分)
7	第6課 ①単語の学習 ②文法の学習	①第6課単語の学習 ②名前の言い方と聞き方の学習	予習 第6課の単語を読んで予習しておく。(60分)
			復習 P46~47の文法を復習しておく。(60分)
8	第6課 ①本文 ②練習問題	①本文を読んで翻訳する学習 ②練習問題から応用する練習	予習 P45の本文を予習しておく。(60分)
			復習 第6課の練習問題を復習しておく。(60分)
9	第7課 ①単語の学習 ②文法の学習 ③中国食文化の紹介	①第7課単語の学習 ②指示代名詞や動詞述語文 ③中国食文化の紹介③	予習 第7課の単語を読んで予習しておく。(60分)
			復習 P52~53の文法を復習しておく。(60分)

10	第7課 ①本文 ②練習問題	①本文を読んで翻訳する学習 ②練習問題から応用する練習	予習 P51の本文を予習しておく。(60分)
			復習 第7課の練習問題を復習しておく(60分)
11	第8課 ①単語の学習 ②文法の学習	①第8課単語の学習 ②よく使う疑問詞、反復疑問文や助動詞などへの学習	予習 第8課の単語を読んで予習しておく。(60分)
			復習 P58～59の文法を復習しておく。(60分)
12	第8課 ①本文 ②練習問題 ③中国食文化の紹介	①本文を読んで翻訳する学習 ②練習問題から応用する練習 ③中国食文化の紹介④	予習 P51の本文を予習しておく。(60分)
			復習 第8課の練習問題を復習しておく(60分)
13	第9課 ①単語の学習 ②文法の学習	①第9課単語の学習 ②数や年齢の言い方、量詞と「所有」の表現“有”の学習	予習 第9課の単語を読んで予習しておく。(60分)
			復習 P64～65の文法を復習しておく。(60分)
14	第9課 ①本文 ②練習問題	①本文を読んで翻訳する学習 ②練習問題から応用する練習	予習 P63の本文を予習しておく。(60分)
			復習 第9課の練習問題を復習しておく(60分)
15	前期のまとめ	第1課～第9課への重要ポイントへの復習	予習 第5課～第9課の単語の練習。(60分)
			復習 プリントを参考して総復習しておく(60分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅・飯田敦子	朝日出版社

◆参考書

書名	著者	発行所
授業中資料として配布		

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	20
レポート	0	実技(発表・会話)	20
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

(補足)

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

小テスト: 前の週に通知、試験後に解説する。

◆受講上の注意事項及び助言

授業中に集中することが大事です。

◆オフィスアワー

受付時間: 授業終了後に対応します。

受付場所: 学務課

上記で対応できない場合: 学務課に相談してください。

基礎調理実習 I

(1 単位) (食品学科)

開講時期 1 年・前期
担当者氏名 吉田 光一

◆授業概要

調理の目的は、食品を食べやすく、おいしく、栄養的な価値を高め、衛生上安全なものにすることである。そのための調理技術は経験的に行われることが多いが、調理の理論を科学的に理解することで、効率的に習得することができる。

本実習は調理学の講義を踏まえ、調理の基礎的知識と技術の習得を目標とする。授業内容は食品の選定、計量、切り方及び日本料理・西洋料理・中国料理の基本的な調理操作を習得することである。

◆到達目標

1. 切り方の基本と実践が出来る
2. 各料理の調理法の基本を覚える
3. 衛生的に食品を扱える

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	調理実習について	実習の注意事項、計量器具の取り扱い方 計量練習、レポートの書き方	予習 容量と重量の単位と計量 (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
2	包丁法 (野菜の切り方 1)	大根・人参 (甘酢)、きゅうり、 キャベツ (マヨネーズ)	予習 切り方の名称を理解し実践する (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
3	日本料理 1	白飯、清汁 (かきたま汁)、酢の物	予習 米の炊き方、合わせ酢について 出汁の種類 (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
4	日本料理 2	沢煮椀、凍り豆腐含め煮、 ふきの青煮	予習 煮るを理解する 乾物のもどし方 (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
5	日本料理 3	鰯の煮付け、茶碗蒸し、 ほうれん草の浸し	予習 蒸すを理解する 魚の種類 (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
6	日本料理 4	炊きおこわ、鯔の姿焼き、清汁	予習 焼くを理解する 魚の構造 (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
7	西洋料理 1	Salade de macedoine Potage puree Crecy (ブイヨン)	予習 フォンとブイオンを理解する 乳化型のドレッシング (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
8	西洋料理 2	Sandwichies, Salade de chou-fleur Hot tea	予習 パンと具の関係 分離型のドレッシング (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
9	西洋料理 3	Chicken Indian Curry, Gelee de cofe	予習 香辛料について ゼラチンの扱い方 (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
10	西洋料理 4	Riz a la florentine, Fricassee de poisson	予習 白系ソースを理解する 鶏肉について (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
11	中国料理 1	什錦炒飯、焼売、烏龍茶の入れ方	予習 中国料理の道具 炒める (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)

12	中国料理 2	珍珠丸子、香酥魚	予習 挽肉の扱い方 ソースを理解する (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
13	中国料理 3	咕咾肉 (搾菜炒肉絲、杏仁豆腐)	予習 合わせ調味料の使い方 豚肉について (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
14	中国料理 4	乾焼明蝦 (涼拍黃瓜、清川鵝蛋)	予習 スープについて 甲殻類を理解する (30分)
			復習 実習レポートを作成し、理論を理解する (30分)
15	実技試験	切り方	予習 同材料を同じ大きさに切る (30分)
			復習 成果を確認し、実践する (30分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
新版 調理実習書	浜島教子、富吉靖子、佐藤辰江	学建書院
日本食品成分表 2023	香川明夫監修	女子栄養大学出版部

◆参考書

書名	著者	発行所
調理と理論	山崎清子、島田キミエ	同文書院
総合調理科学事典	日本調理科学会 編	光生館
オールフォト食材図鑑	荒川信彦、唯是康彦 監修	調理栄養教育公社

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)

レポートは材料・作り方だけでなく調理のポイントや廃棄率等も計算し記入する。実習中に疑問に感じた点や興味を持ったことについて参考書等を利用して調べ記述する。

学習に取り組む姿勢・意欲については「積極的に実習に参加している」「できるだけ良いものを作ろうとする意識を持っている」「チームをリードして進めるように努めている」ことについて評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

実習後、各班に講評を行う。

レポート返却時に解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

予習・復習をしっかりとしておく。

◆オフィスアワー

受付時間：月曜日～金曜日 16：10～18：00

受付場所：調理学研究室

上記で対応できない場合：個別対応